特集１

平山で笑顔がはじけた

高知・のびのび青空キャンプin香美

７月２１日～２８日　ほっと平山

東日本大震災の福島県第一原発事故の影響で、福島県やその近辺には、放射線の影響に不安を抱える家族が多く、子どもたちが安心して屋外で遊べる環境ではありません。

7月21日～28日、放射線の影響に不安を抱く親子の保養を目的に受け入れが行われ、ほっと平山（土佐山田町平山）を中心にさまざまな催しが行われました。

今回参加したのは福島県の4家族と、東京都・千葉県・神奈川県から各1家族の合計7家族18人です。

キャンプの発端は、震災をきっかけに関東方面から香美市に移住された方々のアイデアで、たくさんのボランティアの参加がありました。ボランティアの中には、震災を機に千葉県から高知市へUターンされた方もいました。

また、地元平山地区の協力もあり、流しそうめんやバーベキュー、川遊びなどが行われ、参加家族とスタッフ家族が交流し、豊かな自然の中、のびのびと1週間を過ごしました。

実行委員の一人である新井さん（香北町美良布）は、今年4月に福島県いわき市から香美市へ移住しており、3月から計画されてきたこのキャンプに、知り合いを通じて参加することを決めました。

新井さんは「福島では放射線の不安について話すこともできない。話していると風評被害をあおるのかと言われてしまう。今回のキャンプには放射線に対し、不安を抱える人が集まったので、そういう話もでき、子どもだけでなく親もストレスが発散できたのではないでしょうか」と福島の現状を話してくれました。

▲シンガーソングライターう～みさん（左端）もかけつけてくれました。

母子避難している東京に住居が決まるまで7回の避難。何度も嫌な思いをしましたが、初めて訪れた高知のキャンプでは、私たちを真っすぐに受けてくださりありがとうございました。

娘・息子が大きくなったときに、震災で失ったこともあったけど、多くの人の温かさや、つながりがあって、たくさん助けられたことを話して、私も何かできることを見つけてやっていきたいと思いました。

福島県いわき市　明石　恵

皆さんのおかげで、良い空気を吸い、のんびりと自然に親しむことができました。

地元の方たちの温かい支援もあり、家族のように接してくださり、とても楽しい時間を過ごすことができて、本当に幸せでした。今までは地図上でしか知らなかった高知県が、大好きになりました。

福島県いわき市　開米京子

INTERVIEW

皆さんの支えのおかげでキャンプが無事に行えました

実行委員長　島津佐知子（しまづ　さちこ）さん

ご自身も原発事故を機に昨年10月、神奈川県から高知市へ移住され（現在は香北町谷相に在住）、今回のキャンプを企画した島津さんにお話を伺いました。

子どもがのびのびと遊んでいる姿が見られ、参加者から喜びの声も聞け、キャンプをやって、本当によかったと思います。来年も受け入れを行いたいと考えています。

今回の受け入れは、放射線に不安を抱え、移住したくても諸事情により移住できない家族が短期間でもリフレッシュできればと思い、企画しました。こういったイベントを企画するのは初めてで、高知に知り合いもいなかったので大変でした。

思いだけで突っ走ってしまったので、途中計算すると50万円以上の資金が不足していました。寄付を募ったところ、170万7574円もの寄付金が集まりました。また、香美市産のお米200キロや野菜・ジュースなどの物資の提供もあり、参加者に対し、高知の愛情が十分に伝わったと思います。剰余金については、今後行う同様の趣旨の事業に活用させていただきます。

キャンプには地元の方をはじめ、たくさんの団体や個人のボランティアの方にご協力をいただきました。皆さんの支えがなければ、このキャンプはできませんでした。誌面をお借りしてお礼を申し上げます。